

新品種・新技術活用産地育成プログラムに関する事業評価票

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜産物名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況								具体的な取組内容	事業費等				事業実施主体の評価	地方農政局長の意見		
						基準年	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	再評価1年目	再評価2年目		目標値	達成率	事業実施期間	総事業費(千円)			負担区分(千円)	
						平成26年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	(目標年)令和2年度	令和3年度	(目標年)令和4年度								補助金	その他
愛媛県	松山市	「紅い雫」産地化推進コンソーシアム	いちご	平成28年度	販売額988,000千円 (増加販売額98,254千円)	889,746千円	888,470千円	883,938千円	926,034千円	935,928千円	913,886千円	926,577千円	915,385千円	988,000千円	26.1%	平成28年度～令和2年度	4,427千円	4,427千円	—	<p>「紅い雫」の栽培啓蒙、単収増加に向けた栽培管理指導、高収量モデル実証による栽培環境の「見える化」とデータに基づく環境制御技術等の普及、イベントにおける品種PRに取り組んだ結果、令和4年産「紅い雫」は平成26年(基準年)と比較し、栽培面積2.8ha、出荷量84.6t、単収162kg/10a、販売額102,229千円増加した。しかし、目標年度にあつては、燃油高騰で冬季の加温が十分できない中、寒波の影響で出荷量は全体的に減少傾向となり、出荷量及び販売額は目標を達成できなかった。また、系統出荷全体では、規模縮小・リタイアにより、生産者数が毎年約10戸減少し、それに伴い栽培面積も年々約1ha減少(029～03年産平均)しており、高齢化及び担い手不足が深刻化している。また、近年の生産資材の価格高騰により新規参入のハードルは高く、既存の生産者においても肥料や動力光熱費等は大きく増加しており、生産意欲の減退が問題となっている。</p> <p>今後、引き続き新規栽培者の確保に取り組みとともに、栽培環境の見える化とデータに基づく施設管理方法の検討を進め、効率的な環境制御技術等の普及による単収向上・経費削減を図り、栽培面積の維持及び目標達成を目指す。</p>	<p>新品種である「紅い雫」については、目標年度(令和2年度)実績から比べると販売額は増加したが、寒波の影響によるリタイアで生産者が減少したことの影響もあり、今回の再評価においても目標未達成となった。「紅い雫」については栽培面積が増えているものの、いちご全体の栽培面積が目標年度(令和2年度)実績から1.6ha、基準年から7.4ha減少していることは目標未達成の大きな要因の1つと考えられる。</p> <p>このため、新規栽培者の確保及び効率的な環境制御技術を普及することにより、目標が達成されるよう、改善計画の策定を指導する。</p>	

別記様式第6号

産地活性化総合対策事業（国産花きイノベーション推進事業）に関する事業評価票

事業実施主体名	事業実施年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	事業内容 (検討会構成員、実施回数、実証試験の内容等)	地方農政局長等の意見
			基準年 (計画策定時)	目標年 令和4年	目標値	達成度合			
岡山県 岡山県花き消費拡大実行委員会	30年度	岡山県のばらの生産額	平成28年 4.8億円	令和3年 3.9億円	5.3億円	-180%	○花き関係者の連携への支援	・協議会の開催	岡山県のバラの生産額および取組に参加した岡山総合花き株式会社の売上高は、燃料費等の高騰により加温日数の減少及び設定温度を下げたことによる生育不良や、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントや冠婚葬祭の減少等により目標を達成していない。今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。
		岡山市の家計消費に占める切り花の金額	H25～H29年のうち 中間値3年の平均 7,081円	7,386円	7,790円	43%	○国産花きの需要拡大	・協議会の開催	
		取組に参加した岡山総合花き株式会社の売上高	平成28年 38.3億円	32.9億円	42.2億円	-138%	○フラワーコンテスト・シンポジウム等の開催	・検討会の開催 ・花文化の展示、講演会の開催 ・アンケートの実施	
香川県 花の里かがわ推進委員会	30年度	高松市の家計消費に占める切り花の金額	平成29年 11,957円	11,478円	13,153円	-40%	○国産花きの需要拡大	・協議会の開催	コロナ禍からの回復により家計消費は回復傾向にあるものの、物価の高騰に伴い切り花消費が依然低迷していることや、県オリジナル品種の需要が向上し、県内需要分も高単価の関東や関西を中心に出荷したことから目標を達成していない。今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。
		カーネーション及びバラの県内取扱量（県内出荷量）	平成29年 2,350千本	789千本	2,585千本	-664%	○学校・福祉施設等での花育体験推進	・検討会の開催 ・花育体験の実施 ・福祉施設等での福祉園芸体験	
愛媛県 花のえひめづくり推進協議会	30年度	1世帯当たりの切り花の年間支出金額（松山市）	平成28年 6,809円	4,831円	7,490円	-290%	○フラワーコンテスト・シンポジウム等の開催 ○学校・福祉施設等での花育体験推進	・検討会の開催 ・花文化の展示 ・花育体験の実施 ・アンケートの実施	1世帯当たりの切り花の年間支出金額（松山市）は、物価高騰の影響によって切り花等の嗜好品の需要が下がったことにより目標を達成していない。今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。
		松山市場における株式会社愛媛花市場の花き年間取扱量（県内産）	平成29年 6,067千円	6,111千円	6,674千円	7%	○フラワーコンテスト・シンポジウム等の開催	・検討会の開催 ・花文化の展示 ・アンケートの実施	

産地活性化総合対策事業の薬用作物等地域特産作物産地確立支援事業(薬用作物産地確立支援事業)に関する事業評価票

【再々評価】

都道府県名	事業実施主体名	対象品目名	事業実施年度	成果目標の達成状況(成果目標:栽培面積(a)、生産量(トン))																				事業内容	総事業費(国庫補助金)	取組の総評	地方農政局長の意見				
				基準年		1年目		2年目		3年目		4年目		5年目		6年目		7年目		8年目		目標年						目標値	達成率(%)		
				栽培面積(a)	生産量(トン)	栽培面積(a)	生産量(トン)	栽培面積(a)	生産量(トン)	栽培面積(a)	生産量(トン)	栽培面積(a)	生産量(トン)	栽培面積(a)	生産量(トン)	栽培面積(a)	生産量(トン)	栽培面積(a)	生産量(トン)	栽培面積(a)	生産量(トン)	栽培面積(a)	生産量(トン)						(a)	(b)	
愛媛県	西日本トライ株式会社	カラスビシャク【生薬名:ハンゲ】(1年) 枸杞【生薬名:枸杞子】(4年) ※改善計画で枸杞を追加	H26	0	0	30	0.157	20	0	0	0	10	0.045	10	0.06	5	0.012	10	0.02	10	0.018	10	0.042	150	2.7	6.7%	1.5%	・検討会の開催 ・実証ほの設置(30a)	842,404 (837,652)	カラスビシャクは、収穫時期を早めた事で害虫被害が減少し、遮光ネット(透光率90%)を2重にし、地表面の温度を低くすることで、順調な生育状況であったが、収量は微増だった。栽培技術、ハンゲ(生薬原材料)への調整技術の確立に至っていない。販売先も見つかっていない。枸杞は、販売先が無く、生薬原材料の基準値が高く、契約が困難なため、栽培面積の増加は難しい。カラスビシャク、枸杞の産地化は難しく、成果目標の達成は困難である。	栽培技術、調整技術が確立しておらず、販売先もないことから、成果目標は未達となっており、達成の目処は立っていない。 今後、改善計画を策定するよう指導するが、産地化が困難なため、事業実施主体においては薬用作物の収益が見込めないこと、廃棄予定であることから、実施要綱第7の1の(7)のイに該当するものとして評価を終了することはやむを得ないと判断する。
鳥取県	倉吉市	カラスビシャク【生薬名:ハンゲ】(1~2年)	H27	0	0	4.28	0	4.45	0	7.9	0.02	3.04	0.017	0.28	0.0035	5	0.025	5	0.04	5	0.006	60	0.5	8.3%	1.2%	・検討会の開催 ・実証ほの設置(4.28a)	777,096 (687,866)	栽培技術について、知識・経験は積み重ねてきたが、製薬会社等の撤退で指導者が不在で、安定した収穫量を確保できるだけの技術は確立できていない。 新たな実需者との取引は、ハンゲ(生薬原材料)としての出荷が必要だが、連携企業が調整に失敗し、調整手段を失った。 産地化が見込めず、ハンゲ(生薬原材料)としての出荷もできないことから、事業継続が難しく、実施要綱第7の1の(7)のイに該当するものとして評価を終了することはやむを得ないと判断する。	栽培技術が確立しておらず、成果目標は未達になっている。さらに、調整手段が無いため、実需者と取引できないため、達成の目処は立っていない。 今後、改善計画を策定するよう指導するが、事業実施主体はカラスビシャクの加工調整手段を失い、生薬での出荷ができないことから、事業継続が難しく、実施要綱第7の1の(7)のイに該当するものとして評価を終了することはやむを得ないと判断する。		

【再評価】

都道府県名	事業実施主体名	対象品目名	事業実施年度	成果目標の達成状況(成果目標:栽培面積(a)、生産量(トン))																事業内容	総事業費(国庫補助金)	取組の総評	地方農政局長の意見		
				基準年		1年目		2年目		3年目		4年目		5年目		目標年		目標値	達成率(%)						
				栽培面積(a)	生産量(トン)	栽培面積(a)	生産量(トン)	栽培面積(a)	生産量(トン)	栽培面積(a)	生産量(トン)	栽培面積(a)	生産量(トン)	栽培面積(a)	生産量(トン)	栽培面積(a)	生産量(トン)		(a)					(b)	
山口県	山口県	トウキ【種苗】(1年) トウキ【生薬名:トウキ】(1年) シャクヤク【種苗】(2年) セネガ【種苗】(1年)	H29	0	0	51	0.67	74	0.973	73.4	1.75	68.2	1.63	95.2	2.03	112.3	1.63	181.5	5.165	61.9%	31.6%	・検討会の開催 ・種苗増殖実証ほの設置(3品目、11a) ・農業機械の改良(トウキ定植機) ・栽培マニュアルの作成(3品目)	3,073,967 (3,026,454)	トウキは、定植等の作業の機械化体系を確立したことで栽培面積は徐々に増加しているが、他作物との作業競合が起こらない作業体系の検討を行い、面積拡大を目指す。 シャクヤクは、株分け苗の利用により種苗確保が容易になったことから、出荷量が安定している。 セネガは発芽率低下の課題のため、採取専用株を養成し、充実した種の採取に取り組んでいる。 種苗については、灌水方法や遮光等の検討、発芽率の工場等の検証を行った結果、栽培が安定しており、今後も検証結果を基に栽培指導を実施し、目標達成を目指す。	トウキは収穫後の調整作業に係る労働負担などから過期作業ができず生産量が減少した。セネガは作付拡大を促進し、採取専用株を養成し、充実した種の採取に取り組んだことから、目標の達成に至っていない。 今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。

別記様式第7号(Ⅲの第7関係)

産地収益力向上支援事業に関する事業評価票

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜産物名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況											具体的な取組内容	事業内容(工種、施設区分、構造、規格、能力等)	地方農政局長等の意見	事業費(うち国費)				
						基準年	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目(目標年)令和4年				目標値	達成率	計	平成25年度	平成26年度
						平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年								
徳島県	小松島市	小松島市生物多様性農業推進協議会	水稲・野菜	平成25年～26年度	【収益力向上】野菜の生産量の増加	10.59t	31.01t	24.18t	26.66t	16.67t	13.60t	15.26t	13.35t	10.45t	13.17t	25.15t	40.00t	50%	・栽培技術講習会の開催 ・イベントへの出展(実需者意向把握) ・有機JAS講習会の開催	なし。	野菜の生産量は、低地で水田が多いという農地の特色から目標達成に至っていない。 水稲の販売価格は価格補正後の達成率が285%と、目標を達成した。 今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。			
				【収益力向上】水稲の販売価格の増加	333円/kg	333円/kg	302円/kg	333円/kg	356円/kg	342円/kg	330円/kg	314円/kg	325円/kg	326円/kg	323円/kg	366円/kg	-30%							



成果目標の具体的な内容	徳島県の基準年の販売価格①	徳島県の目標年の販売価格②	補正係数①/②	価格補正後の販売価格	達成率
【収益力向上】水稲の販売価格の増加	286円/kg	216円/kg	1.324	427円/kg	285%